

## ■今月の特選句

2015年3月

**靴下の先のほつれて春めけり**

西をさむ

「靴下のほつれ」と「春めく」は、マイナスイメージとプラスイメージの組み合わせで滑稽句の基本。それが作為的でない所が素晴らしいですね。

**手に享けるバレンタインの試供品**

菅野あたる

馬鹿にするなど怒るのではなく、有難く手に「享ける」。試供品であろうとかまわない。バレンタインに女性からもらったチョコであることに変りない。

**寒灯下推敲重ね季語削る**

奥脇弘久

俳句は季語が大切ではあるが、奉るほどでもない季語もある。「推敲を重ねて無季の名句かな」ということ。そこまで考えずとも十分に可笑しい。

**法の下での平等通らぬバレンタイン**

上山美穂

義理チョコすら届かぬ息子。義理チョコを贈る相手すらない娘。少子化問題を解決するためにも、バレンタインチョコ平等化法の制定が急がれる。

**珍しき年に一度の初日の出**

伊藤浩睦

毎月のように閉店セールが行われるお国柄ですから、年に一度は十分に珍しいのだから、今月の初日とか今週の初日とか言って活性化図ろうよ。

**物差しで測れぬ隙間風通る**

麻生やよひ

「隙間」で切ると無季の句になる可笑しさ。拙句に、「開放のドアより太き隙間風」がある。「侵入のドアの隙間は風まかせ」なんて句も作った。

## ■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

呼び合つてカラスのバレンタインデー  
・・・甘い声出しこの日のカラス

山本 賜

震度一地球も寒の貧乏ゆすり  
・・・半月板は活断層か

田中早苗

寒朝の身震い小便小僧なる  
・・・高齢ゆえに尿の出難し

藤岡蒼樹

身の程を知らぬ願ひが絵馬に揺れ  
・・・せめて予備校合格祈願

寿命秀次

とんかちの晴れての出番鏡割  
・・・槌の逸れてはトンチンカンに

笠 政人

振り向けば顔はなかった雪女  
・・・顔があつてもこれまた怖い

有吉堅二

寒明けて身の箍すべて外しけり  
・・・からだの部品ばらばらにさせ

飯塚ひろし

貧乏神放り飛ばして日向ぼこ  
・・・かと言って金持ちにはなれず

井口夏子

着膨れて裏木戸に裾掴まるる  
・・・帰らないでと裏木戸嬢は

加藤 賢

大蜜柑酸いも甘いもわきまへる  
・・・困った時にや蜜柑に相談

金澤 健

**食べる前も食べた後もまだ海鼠**

・・・真ん中あたり残したんだね

久我正明

**悟りには手も足もでぬ達磨の忌**

・・・瞳虚ろに俳句をひねれ

小林英昭

**文を読む金次郎今スマホ読む**

・・・金次郎とはなにか調べる

酒井鹿洋

## ■今月の滑稽句

- |      |  |                      |
|------|--|----------------------|
| 【佳作】 | 雪女お待ちしてます寡男です<br>風邪引いて夫の無慈悲を知りにけり<br>大寒やふところ寒し年金者      | 青木輝子<br>青木輝子<br>青木輝子 |
| 【佳作】 | 見詰めれば間隔等し梅花芽<br>餅花や季(とき)が過ぎればあられ菓子<br>氷張る城の掘割鴨迂り       | 青山桂一<br>青山桂一<br>青山桂一 |
| 【佳作】 | 無骨なる裸木の苑もまた佳かりけり<br>子を抱いて片掌拝みの梅の宮<br>何処行くのちょっと其処まで東風日和 | 秋月裕子<br>秋月裕子<br>秋月裕子 |
| 【佳作】 | 頷きてマスクの内で舌打ちす<br>薄氷や実なき応へ返す人                           | 麻生やよひ<br>麻生やよひ       |
| 【佳作】 | あの貌で「鬼は外」とはよく云ふよ<br>「鬼は外」貧乏神よお前もだ                      | 有吉堅二<br>有吉堅二         |
| 【佳作】 | 黙々と花は開いて花は散り<br>陽を浴び一面の菜の花笑いこけ<br>キャーキャーとスイートピーのかしましく  | 栗倉健二<br>栗倉健二<br>栗倉健二 |
| 【佳作】 | 春立つや仁王のギョロ目坐りたる<br>入学を済ませ通帳空になり                        | 飯塚ひろし<br>飯塚ひろし       |
| 【佳作】 | 熱爛を嗜む私日本人<br>のっけからへっぴりごしや雪合戦                           | 井口夏子<br>井口夏子         |
| 【佳作】 | 女子駅伝美脚美臀でバスの差<br>新成人初めの酒は猫のごと                          | 池田亮二<br>池田亮二         |
| 【佳作】 | 朝霧に児島連山空に消え<br>初夢に欲捨て切れずわれ哀れ<br>山間の刈田光て春隣              | 伊藤慈秀<br>伊藤慈秀<br>伊藤慈秀 |
| 【佳作】 | 棺桶の下見誘はれみる六日<br>志樸籬寿(こころざすゆずりはまがきいのちなが)                | 伊藤浩睦<br>伊藤浩睦         |
| 【佳作】 | どんど焼きうわさをすれば影来たる<br>自由とはどこへでも行く落葉かな<br>庭の花蕾ふくらみ鳥帰る     | 稲沢進一<br>稲沢進一<br>稲沢進一 |

【佳作】	無防備はインフルエンザ近寄らず こんにゃくの痛み思はる針供養 息子、婿バレンタインや夫は義理	井野ひろみ 井野ひろみ 井野ひろみ
【佳作】	七草をハーブのことか問われけり 黄粉もちあんこもちよりお金持ち 凍滝の黒き腹をば曝しけり	入江澄泉 入江澄泉 入江澄泉
【佳作】	枯木と呼ばれ充電中の花水木 しびれるや母のおろした大根は	上山美穂 上山美穂
【佳作】	鳥渡る青信号のLED 三桎の花咲く中央分離帯 流れ来るペットボトルや春の川	氏家頼一 氏家頼一 氏家頼一
【佳作】	新玉のツタンカーメンひげ盗られ ひゆるりてふ笛の音の澄み冬の鳶 ランナーのかけひきたくみ春の乱	梅岡菊子 梅岡菊子 梅岡菊子
【佳作】	都合よき養生訓や玉子酒 それなりの覚悟してをりふぐと汁 お年玉出すより貰ふ数の増え	越前春生 越前春生 越前春生
【佳作】	鬼やらい忘るるほどに恙なし 寒月や吠えていたるは酔っ払い	大澤酒仙奴 大澤酒仙奴
【佳作】	初詣カネも若さも欲しいのよ バレンタイン義理も人情もあるわが社 出不精を孫が連れ出す雪祭り	岡野 満 岡野 満 岡野 満
【佳作】	鬼やらひ鬼には鬼の言い分が おでん屋の主役はオレと鬨ぎ合ふ 主の撒く豆なら見事打たれたい	小川鮎太 小川鮎太 小川鮎太
【佳作】	水面下秘め事ありや冬の鯉 ぎりぎりの譲歩の果てのおでん酒	奥脇弘久 奥脇弘久
【佳作】	堂々と塀の上ゆく孕み猫 年の豆食ふ一割に割愛し	笠 政人 笠 政人
【佳作】	初飛行の窓からのぞき石鎚山 受験の児ペットボトルを湯たんぽに 寒風に泪ひと粒落しけり	加藤澄子 加藤澄子 加藤澄子

【佳作】	冬籠ときをり妻が来て覗く 店内の照明落とし鬼やらひ	加藤 賢 加藤 賢
【佳作】	仏手柑珍名なり珍品なり 仏手柑観音様の手のような 冬の薔薇一輪残し作業止め	門屋 定 門屋 定 門屋 定
【佳作】	真打ちの鰯を襲名致しけり 白菜や尻の色気で選ばれる	金澤 健 金澤 健
【佳作】	大寒の人を待つ間の一句かな 寒風に押しもどさる骨と皮 マンションの白の空間外は雪	川島智子 川島智子 川島智子
【佳作】	メール打って済ます生業燕来る 義理チョコも義務チョコも来ぬ猫の恋	菅野あたる 菅野あたる
【佳作】	公園のジャングルジムに干大根 子どもみぬ児童公園冬枯れる	久我正明 久我正明
【佳作】	鶯のスラーの後の休符かな 沈丁の密なる謀議ほころびぬ ハンプティは塀に座るや寒卵	工藤泰子 工藤泰子 工藤泰子
【佳作】	言い訳に使いし風邪に取りつかれ 携帯の男はマスクあごにかけ 向き合うて無言でみかん剥いている	小泉花子 小泉花子 小泉花子
【佳作】	風呂吹のダンスしてゐる舌の上 鯛焼の釣果の方をよろこばれ	小林英昭 小林英昭
【佳作】	飲み食いの当ては勝負や大相撲 大相撲もはやモンゴル場所であり	酒井鹿洋 酒井鹿洋
【佳作】	つらら溶け春ちら見せ又ふぶく ウォーキング格好見て犬ほえ回る 恵方巻あっち向いてパクこっちパクよ	佐藤義子 佐藤義子 佐藤義子
【佳作】	新年会続き血糖値案の定 鶯の嬌声椿の花落とす 七草過ぎ早恵方巻予約せり	佐野萬里子 佐野萬里子 佐野萬里子
【佳作】	鳴ってみてやる気失ふ春の雷 春愁や歯牙の丈夫な人と居て	下嶋四万歩 下嶋四万歩

	蛇出でて泥臭き身を誹らるる	下嶋四万歩
【佳作】	初雪の降り積むギャルの付け睫 大櫓赤城風に素っ裸	壽命秀次 壽命秀次
【佳作】	長考となるを予感の懐手 耳寄りな話筒抜け日向ぼこ いつもより少し大き目春財布	白井道義 白井道義 白井道義
【佳作】	松ぼっくりここにも転げて平成の貌 歩道からはみ出した影法師鬼の豆持っている 笑うでもない怒るでもない松ぼっくり拾う	鈴木和枝 鈴木和枝 鈴木和枝
【佳作】	新年を砂糖を一本コーヒーに 小春日や郵便局の窓口へ 年末にノート三冊参考書	鈴木哲也 鈴木哲也 鈴木哲也
【佳作】	悪童の今日は泣いてる二日灸 おしどりに浮気もあつて東慶寺 移り気は父さんゆずり猫の恋	高田敏男 高田敏男 高田敏男
【佳作】	するめ炙ることのみ夫の一月尽 塩砂糖大匙一減大寒や 酒に吞まれ佳き初夢を忘れてたり	高橋きのこ 高橋きのこ 高橋きのこ
【佳作】	早春や福山城を仰ぐなる 老人の滑稽を詠む建国日 春の雪藤ノ木古墳訪ねたる	田中 勇 田中 勇 田中 勇
【佳作】	孫よりも娘に献杯を成人式 一斤の肉か金かよ虎落笛	田中早苗 田中早苗
【佳作】	日向ぼこ愚痴と自慢を持ち寄つて 着ぶくれの犬に引かれて散歩かな ベランダにこれ見よがしとペア毛布	田村米生 田村米生 田村米生
【佳作】	恵方向きロールケーキを丸齧り 立春という文字だけで気が晴れる 恵方巻きロールケーキも仲間入り	津田このみ 津田このみ 津田このみ
【佳作】	言い訳を今日もしにけり日脚のぶ 欠伸して般若心経呟え返る 活刺の烏賊の青目や新年会	土屋泰山 土屋泰山 土屋泰山

【佳作】	播り粉木も播り下ろしてる木の芽和 すぐ判る男の嘘と沈丁花 カレンダーまだ売っている二月 寄席	都吐夢 都吐夢 都吐夢
【佳作】	老いの春二十四時間一人占め 日脚伸ぶ長さ忘れる待ち時間 人も来ず文も来ぬ日や二月尽	飛田正勝 飛田正勝 飛田正勝
【佳作】	這這の子がひよいと抜く雛の首 天秤にかける損得山笑ふ 風見鶏雁の帰るを返りみて	永島董玉 永島董玉 永島董玉
【佳作】	正月はこれでいいのだ食べて寝て 咳の次くさめつづいて大欠伸 モヂリアニの顔して女寒日和	新島里子 新島里子 新島里子
【佳作】	非正規の社員がふえる二月かな 殺戮のいつまでつづく余寒かな	西をさむ 西をさむ
【佳作】	節分や腹にもたれる豆の数 チョコレート当たれ当たれと数を打つ パンジーに数で挑みしヴィオラかな	花岡直樹 花岡直樹 花岡直樹
【佳作】	初仕事ラップの端が見つからぬ マフラーや大蛇のごとく蜷局巻く 初場所や勝つてとぼける安美錦	原田 曄 原田 曄 原田 曄
【佳作】	大根の捨て値となりし育ち過ぎ 加齢とていよいよ華麗春の夢 恵方巻き皆で食べて季語とせり	ひがし愛 ひがし愛 ひがし愛
【佳作】	鏡餅来年用に仕舞ひ置く お出かけのダッフルコートお犬さま 豆撒や鳩勘違ひして登場	久松久子 久松久子 久松久子
【佳作】	内定の電話に香りヒヤシンス 人質のニュース流れる寒夜かな 毛糸玉転がつてゐる平和かな	日根野聖子 日根野聖子 日根野聖子
【佳作】	梅見ごろ桜そろそろ靴を購う 碁の終い和尚合掌こちぺこり 平明に打ちたし詠みたし高川流	平戸良治 平戸良治 平戸良治
	東京の麻痺をちこちに春の雪	藤岡蒼樹

- |      |  |                         |
|------|--|-------------------------|
| 【佳作】 | 喉渇く飴遊びや山笑ふ   | 藤岡蒼樹                    |
| 【佳作】 | 初春の老いたゴリラの思案顔<br>福笑何度やつてもゆるい顔<br>春著なぞとんとごぶさたでも元気     | 藤森荘吉<br>藤森荘吉<br>藤森荘吉    |
| 【佳作】 | 落葉踏む音の楽しき遊歩道<br>一面の銀メッキなり霜の草<br>一花落ち椿の景の損なはる         | 藤原セツ子<br>藤原セツ子<br>藤原セツ子 |
| 【佳作】 | 雪だるま日本海側勢揃い<br>凍みる月おのれの心見透かすや<br>春遠し身体まるめて床の中        | 細川岩男<br>細川岩男<br>細川岩男    |
| 【佳作】 | 寒星に疲れ果てたる身を反らす<br>梅のつぼみのひとつふたつや春近し<br>初句会飾納もそこそこに    | 松井寿子<br>松井寿子<br>松井寿子    |
| 【佳作】 | 湯たんぼとせめては足のいちゃいちゃす<br>馬の吐く白息浴びる口臭も<br>眠る山胎内むずむずしてきたる | 松井まさし<br>松井まさし<br>松井まさし |
| 【佳作】 | 臥龍梅あらかたの骨の終活す<br>春巻きや秋に食べても春巻きねん<br>出世坂もういいと下る花なずな   | 三橋百笑<br>三橋百笑<br>三橋百笑    |
| 【佳作】 | 床の間を一段として雛飾る<br>畦焼の炎をさらふ風立ちて<br>春耕の鋤の柄杖に長話           | 宮森 輝<br>宮森 輝<br>宮森 輝    |
| 【佳作】 | 呼び声の悲鳴に似たり残り福<br>歳月をゆるりと混ぜて葛湯かな<br>淡雪や明日の現実今日の夢      | 百千草<br>百千草<br>百千草       |
| 【佳作】 | まばたきの妖しき音や傀儡師<br>見上げればひかりの糸に月の浮子<br>拗ねた子を見守つており氷柱溶け  | 森岡香代子<br>森岡香代子<br>森岡香代子 |
| 【佳作】 | 「なもし」てふ伊予の方言菜飯食ふ<br>笑ふ日はまだまだ先ぞ眠る山<br>バスを待つ衿元余寒に狙はれる  | 八木 健<br>八木 健<br>八木 健    |
| 【佳作】 | 風邪ごゑのマスクの医者に諭さるる<br>冷やかして買ふはめになり達磨市                  | 谷澤紀男<br>谷澤紀男            |

【佳作】	氷点よりぬくし笑点高得点 揚雲雀天地無用の飛脚便 入り彼岸復興悲願五年目に	八洲忙閑 八洲忙閑 八洲忙閑
【佳作】	遺伝子をあなたに委ね成人日 雪合戦あの世この世を歩き戻り 煤逃や雷神と化す山の神	柳 紅生 柳 紅生 柳 紅生
【佳作】	まだできるはらりと落す雪の華 食べたるは河豚の刺身や命がけ 春分や安値のチラシ遠廻り	柳澤京子 柳澤京子 柳澤京子
【佳作】	藁葺きの尺屋住ひや寒ぼたん 雪吊りの終へて真白きほたるかな 寒の入り飲み込む覚悟大茶盛	山下正純 山下正純 山下正純
【佳作】	綿入を着て門番の老犬よ 消防に見守られつつ飾焚く かあさんの仕種真似てる初詣	山本けい子 山本けい子 山本けい子
【佳作】	蜆汁ランチタイムのせかせかと 奔放やひこばえの本性は	山本 賜 山本 賜
【佳作】	我慢我慢我慢限界卒業す もどかしく嗚呼じれったき春告げ鳥 認知症演じもしては木の葉髪	横山喜三郎 横山喜三郎 横山喜三郎